

令和4年度ゼロカーボン研究会の概要と 第5回研究テーマの説明

事務局
(備前グリーンエネルギー株式会社)

令和4年度ゼロカーボン研究会の概要

【目的】

2050年までに二酸化炭素排出実質ゼロを実現するため、岡山連携中枢都市圏、周辺自治体、事業者及び大学等と「ゼロカーボン社会」実現のための情報交換を行い、今後の具体的な取組を創出すること。

【方針】

- ①ゼロカーボン社会実現に向けた対策は全ての部門に対し、あらゆるアプローチで実施することが必要
 - 各部門のCO₂削減を偏りなく進められるテーマ・内容を研究
- ②研究だけに留まることなく具体的な事業等の創出を目指す
 - 事業創出に向けたゼロカーボン分科会を開催し、詳細内容を打合せ
 - 先進的取組みを行っている事業者（講師）を多く招き、事業等創出につながる研究内容とする
 - 事業実施時のプレイヤーとなる地元や近隣地域の事業者（講師）へご意見を伺い、具体的な事業等を検討する

令和4年度ゼロカーボン研究会の概要

【開催回数・時期】

今年度は合計5回のゼロカーボン研究会を開催予定
(5月、7月、10月、11月、**1月**)

【参加者】

産：民間企業（各回テーマに関連する企業へ参加依頼）

学：岡山大学

官：岡山連携中枢都市圏、倉敷市

第5回研究テーマ

『再生可能エネルギーの最大限導入に向けたソリューション』

2050年カーボンニュートラル、2030年度の温室効果ガス排出量46%削減、更に50%削減の高みを目指すため、国のエネルギーミックス（2030年度におけるエネルギー需給の見通し）では、2020年度導入量に対し2030年度までに太陽光発電を約80%増、水力発電を約1.4%増とすることが示されている。

	2011年度	2020年度		2030年度エネルギーミックス	
再生エネの 電源構成比 発電電力量:億kWh 設備容量:GW	10.4% (1,131億kWh)	19.8% (1,983億kWh)		36-38% (3,360-3,530億kWh)	
太陽光	0.4%	7.9%		14-16%程度	
		61.6GW	791億kWh	104~118GW	1,290~1,460億kWh
風力	0.4%	0.9%		5%程度	
		4.5GW	90億kWh	23.6GW	510億kWh
水力	7.8%	7.8%		11%程度	
		50GW	784億kWh	50.7GW	980億kWh
地熱	0.2%	0.3%		1%程度	
		0.6GW	30億kWh	1.5GW	110億kWh
バイオマス	1.5%	2.9%		5%程度	
		5.0GW	288億kWh	8.0GW	470億kWh

出典：2022年10月 再生可能エネルギー発電設備の適正な導入及び管理のあり方に関する検討会 提言

第5回研究テーマ

『再生可能エネルギーの最大限導入に向けたソリューション』

- 太陽光発電の最大限導入に向けた課題の一つとして、使用済の太陽光パネルの適正な処理方法の明確化が必要となっている。

<背景>

- 2012年から始まった再生可能エネルギーの固定買取価格制度（FIT）により、大量導入された太陽光パネルが、2030年代に排出量が顕著に増加すると想定されている。
- 現在排出されている使用済みの太陽光パネルの多くが、リユース可能なものであること、また銀などの有用金属を含むことから、リユース、リサイクルといった資源循環の考え方に沿った対応が重要となっている。
- 一方でパネルに含まれる有害物質への懸念から、適正な埋立処分方法の明確化が必要となっている。

<太陽光パネルの処理の課題>

	■ リユースの適正化・低コスト化		■ 資源の有効利用 ⇒ 含有される銀などの有用金属回収
	■ 有害物質に関する情報提供 ⇒ 鉛等の有害物質への対処 ⇒ 処理時のメーカー不存在リスク対処		■ 最終処分量の減少 ⇒ 貴重な社会資源である最終処分場の延命
	■ 処理能力の確保		■ 撤去・廃棄費用の積立 ⇒ 発電事業終了後の放置・不法投棄防止

<方向性>

- 環境省では、2016年に策定した「太陽光発電設備のリサイクル等の推進に向けたガイドライン」を2018年12月に改定し、有害物質情報の伝達に関する関係者の役割分担や埋立処分をする場合には、より安全な管理型処分場にて埋立てを行うように明確化している。
- リユースについては、2021年5月に「太陽電池モジュールの適切なリユース促進ガイドライン」を策定している。
- 今後は、さらに、適切なリユースの促進、高効率なリサイクル設備の導入の補助、技術開発の実施により、安定的な資源循環のための体制作りを進めていく。

第5回研究テーマ

『再生可能エネルギーの最大限導入に向けたソリューション』

【講演の観点】

岡山での導入が考えられる多様な再生可能エネルギーを、最大限に活用するためのソリューションとして、太陽光発電パネルのリサイクル、リユース、農業用水路を活用した小水力発電（マイクロ水力発電）の取組みについて研究。

本日の講演内容

内容	講師
(1) ソーラーパネルリサイクルモデルの構築	株式会社新見ソーラーカンパニー
(2) 太陽光パネルリユース&リサイクル	株式会社浜田
(3) 用水路などを活用したマイクロ水力発電に関して	株式会社エリス